

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスト		
事業所名	やぎあん ユニット名 1F		
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	平成29年11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症でグループホームに入居したとしても、その人らしい生活やそれまで続けていた生活習慣、趣味や特技などが、できるだけ長く本人様の力を使いながら続けることができるよう、支えられるよう情報収集に力を入れています。おひとりおひとりが主役でいられる毎日が送れるよう、職員は支える役割としての支援を日々工夫しています。日々の楽しみとして、季節毎のイベントとして行事の企画・運営に力を入れており、地域の方々を招待しての「夏祭り」は毎年好評を得ています。日々のご様子を写真におさめ、面会時や運営推進会議で見て頂いたり、広報誌へ掲載し、施設でのご様子を知って頂く機会としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、八木山動物公園駅や日赤病院のバス通りに面した便利の良い住宅地の一角にある。理念は「我がままに」を基本に、今年度の介護目標「自分らしく、生き生きと」を掲げ、入居者がこれまでの人生を継続し、自分を出して生活できるよう支援している。「夏祭り」等で地域の方と交流し、「ハロウィン」では保育園児と触れ合い、飴を交換して喜んでいる。目標達成計画にある避難訓練への地域の方の参加は、継続して取り組むこととしている。看護師が常勤しており、協力医療機関との連携もよく、入居者の健康管理も行き届いている。入居者は、明るく暖かいフロアで談笑し、一人ひとりが自分らしく生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 1F」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」の理念に沿って、入居者様ひとりひとりの思いを大切に、小さなご希望でも叶えられるよう寄り添い支援しています。	年度末に介護目標を振り返り、新年度はどうするかを検討し、「自分らしく、生き活きと」にした。その人の生活環境を継続し、本人本位の支援となるよう意識し、実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時の挨拶をはじめ、毎年恒例の夏祭りや防災訓練実施の際など、お声がけさせて頂き、足を運んで頂いています。	「やぎあん夏祭り」は、出店の焼き鳥、枝豆、焼きそば等を食べ、家電製品やお菓子が当たる抽選会は盛り上がり、交流の場となった。ハロウィンでは、仮装した保育園児と入居者が飴を交換し、楽しんだ。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関先や散歩中の挨拶を積極的に行なうことで、施設の現状を理解してもらう機会になっています。管理者が認知症サポーター養成研修の講師なので、地域の方への認知症の理解を深める場を作っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの意見や提案、アイデアを頂くことにより、今後のより良いサービス提供、より地域に密着したサービス提供になるよう努めています。	奇数月に年6回、定期的に開催されており、毎回地域包括センター職員が参加している。外部評価の結果を報告したり、包括職員から認知症予防体操の提案があり、取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所と連携をとっています。必要に応じて、保護課に相談に伺っています。	生活保護や介護保険の更新手続き等で出向いている。行政からの研修予定表が届き、各種研修に参加している。管理者がオレンジカフェの「つながりの会」で「認知症予防について」の講話をした。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や外部研修を通し、身体拘束をしないケアの取組みを行なっています。玄関にチャームを取り付け、施錠することなく職員が気付き、散歩へ出かける入居者様への付き添いなどの対応ができています。	玄関は、夜間の時間帯にだけ施錠している。玄関の呼び鈴で人の出入りが確認できる。現在、外出したいと言うが、無断で外出する方はいない。外部研修の、スキルアップ研修で虐待防止等の研修に参加し、内部研修で伝達教育をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行ない、高齢者虐待について職員ひとりひとりが知っておかなければいけないことの共有を行ない、意識しながら適切なケアを無くすよう努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ積極的に参加し、その内容を踏まえながら内部研修も行ない、権利擁護について学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり、契約書や重要事項説明書の説明には時間をかけています。疑問や質問など、不安の解消にも努め、納得いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置し、ご家族様や入居者様からのご要望、ご意見をひろく募っています。管理者を窓口とし、必要に応じて職員全体に共有できる体制にしています。	面会時や計画書の説明時に意見や要望等を聞いている。ベッドの下に埃やティッシュがあり、清掃を問う意見があり、対応している。年間分の着替えを預かるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも提案やアイデア、意見を話せるような風通しの良い職場環境作りを心掛けています。話してもらった内容を反映できるよう、詳しく聞ける場も作っています。	毎月の会議等で職員の意見や要望等を聞いている。掃除機・電気ポット・ミキサー等を購入した。資格研修は勤務扱いとし、シフトを交替し、交通費を補助している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて面談の機会を作っており、職員ひとりひとりの特性に合った職場環境になるように調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修に加え、外部研修への参加を積極的に勧め、職員ひとりひとりの伸ばしたい能力を最大限に伸ばせるよう、人材育成の取り組みを行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が認知症介護指導者ということもあり、他事業所職員との交流の場が多いため、そのつながりを活かしての勉強会やネットワークづくりを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して介護サービスを受けることができるよう、コミュのケーションを多くとりながら、信頼関係を築くよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様両者が安心して介護サービスを受けることができるよう、コミュのケーションを多くとりながら、信頼関係を築くよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス利用で完結するのではなく、その時に必要なサービス(フォーマル、インフォーマル問わず)との連携が図れるよう、柔軟な対応を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりが安心して、安全に生活できる環境づくりを心掛けています。レクリエーション(カラオケや軽体操など)、調理(盛り付けや食材切りなど)など、一緒に活動することで共に過ごす場となるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足や季節の行事(夏祭りや敬老会など)などにお誘いし、交流をもてるよう努めています。面会の多いご家族様にはその都度ご様子をお伝えし、少ないご家族様にはお手紙や電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その時々で面会の機会をもうけ、気兼ねせずにお話しができるよう対応しています。会話が思うように伝わらないときには、職員が仲介させていただき、入居者様と面会者がより良い時間を過ごせるよう努めています。	馴染みの関係を大事にし、地元の老人会に参加する方を継続支援している。華道の先生だった方は、花を生け、入居者にも教えている。月命日やお盆に墓参りする方、正月に実家に外泊する方等もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係が築けるよう、継続できるよう常に目を配り、時に仲介し、サポートしています。日々の活動や外出を通し、良い関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様が来所される機会がありました。退所後も関わりを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で、ご希望や思い、意向を伺う機会をもっています。会話が困難な入居者様からも、その方の生活歴や日々のご様子、家族様から伺ったことから思いの把握に努め、その人らしさを大切にしています。	本人や家族からの情報に基づく生活歴や、日常会話の中から思いを把握し、希望に沿うように支援している。入居前に寝酒を習慣としていた入居者には、正月やお盆にビール等をだしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様本人やご家族様、面会に来られるご友人の方などから伺った話の中で、生活歴や暮らし方についての把握に努め、職員間で共有するように努めています。それを日々の支援に活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりのライフスタイル、日課としていくこと、生活リズムなどを把握し、その人らしく生活して頂けるよう、大切にしながら支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様のご要望を伺いながら、その時の本人様の状況に合わせた内容になるよう介護計画の作成を行なっています。	計画は3ヵ月毎、状況に変化があればその都度見直し、本人・家族の同意を得ている。退院後、食事状態が「とろみ」だった方に飲み込みハビリティを計画に取り入れ、「きざみ」に改善した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の「日常記録」や申し送り事項から、その時々入居者様のご様子を反映した介護計画の作成・見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域資源の把握を行ない、ひとりひとりの入居者様の状況に合わせたサービスの多様化につながるような体制にはしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居される以前の生活で、よく出かけていた場所など(自宅や買い物に行っていた店など)に継続して出かけられるよう、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に、以前からのかかりつけ医への受診を希望される入居者様があり、ご家族様のご希望を受け通院へ付き添い、状況の説明をしております。症状に合わせての専門医受診も行なっています。	殆どの方が協力医の月2回の往診を受けている。看護師が常勤し、通院の付添い、医師との調整、医療ケア等に当たっている。医療連携が出来ており、24時間対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃、看護師の介護業務に入っているため、報告・連絡・相談が早くでき、対応につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の入院の際には、必要な情報が用意できるようにまとめています。また、ご家族様の了承を得ながら、退院の説明や看護師からの説明の機会に立ち会い、必要な治療と早期の退院が実現できるよう連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際に「看取りに関する指針」を説明しながら、意向の確認に努めています。また、重度化に伴い、ご家族様と医師、施設職員が集まる機会をもうけ、今後の方針を十分に話し合いながら看取りに望めるよう取り組んでいます。	入居時に「重度化期における対応(看取り)の指針と同意書」を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて説明し、改めて同意を得る。外部の終末期のスキルアップ研修に参加し、内部研修で伝達している。今年度、1名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には直ちに看護師、管理者に電話連絡し、対応の指示を受けるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、そのうち1回は消防署の立ち会いの元で訓練を行なっています。	避難訓練は夜間想定で2回実施した。2階の車いすの方を、職員が地域住民の役をやり、4名で階段から避難させた。消防から「避難が分かる工夫を」の指導があり、検討中である。地域の方の参加はない。	地域住民の協力は、昨年のステップの課題である。災害時の対応は、事業所だけでは限界があり、地域防災組織等に働きかけ、協力を得られるよう取り組んで頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の理念「わがままに」についての内部研修をはじめ、入居者様を尊重する声がかげやケアを学び、考え、日々の実践にいかしています。	人生の先輩として尊重し、「さん」を付けて呼び、声がかげも馴れ合いにならないよう注意して接している。失敗した時はそわそわして表情が違うので、「着替えますか」等の声がかげをする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の生活スタイルや生活リズムに合わせた上で、意思表示できる工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりを優先しないよう、声がかげや柔軟な対応を心掛けている。入居者様の希望・要望を多く叶えられるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に選んでいただけるよう工夫しながら、身だしなみを整えている。散髪やひげそりなども、定期的に行ない、生鬚に、おしゃれに過ごせるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で、入居者様それぞれに好みを伺い、メニューに取り入れる工夫をしています。食事の盛り付けや食後の食器拭きなど、毎日の流れの中で手伝ってくださっています。	メニューは、職員が入居者の好みを聞いて作成し誕生日には、パン、ラーメン、蕎麦、握り寿司等の希望がある。会社の食費支援で、職員も同じ食事を取りながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に合わせて、食事形態や塩分、糖分の調整を行なっています。食事時間に召し上がれなかった方は、時間をずらしたり、好みのものを提供するなど柔軟に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアのお声がかげを行なっています。義歯洗浄や仕上げ磨きも自力で難しい方は介助しています。歯科の訪問診療を取り入れており、検査や点検、口腔ケアの指導をもらい、日々のケアにつなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に、その方の排泄に対する思いを理解し、羞恥心などにも配慮しながら介助しています。普段オムツの方でも、トイレに座る機会を作れるよう支援しています。	年齢に応じ失敗の回数が増えているが、トイレに誘導している。退院時オムツだった方が、定時の誘導でリハビリパンツに改善した。オムツ等の交換は「お部屋に行きませんか」等声がけし、ドア、カーテン等を閉めて交換する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握して、便秘予防へつなげる努力をしています。お腹のハリがある際にはマッサージをして理、トイレに座る時間を設けています。便秘の方も、ひとりひとりに合わせた下剤を調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりにお声がけをし、定期的に入浴していただいています。本人の入りたい時間に合わせたり、その時の気分に沿った柔軟な対応をしています。	午前と午後の時間帯に、週2～3回入浴する。毎回1番風呂が習慣の方もいる。嫌がる人には時間や職員を替えて支援している。重度者は、2名で介助し、シャワー浴である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様ひとりひとりの生活リズムをみながら、その時の気持ちに合った休息をとっていただけるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との相談しながら、調整しながら服薬支援をしています。必要な薬なので、確実に内服していただけるよう、チェックを重ねて服薬していただき、その後の変化にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃よりコミュニケーションを多くとり、ひとりひとりに会った「やりたいこと」「したいこと」を活かせるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「買い物に行きたい」「自宅に行きたい」などのご希望に、柔軟に対応できています。また、遠足や外食の機会をつくり、季節ごとに実施しています。	遠足で松島に出かけ、花見では三神峯公園に出かけた。希望に応じて、青葉神社、大崎八幡、名取熊野神社等に出かけた。日常的には、ベンチで外気浴をし、散歩がてら近くのコンビニで菓子を買ったり、薬局で飴、マスク、湿布等を買っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には自己管理されている方もいますが、殆どの入居者様は事務所の金庫でお預かりし、ご希望を伺いながら好きな物や必要なものを購入するよう声がけ・支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末、年賀状を作成し、ご家族様やご友人などとのやりとりが継続できるよう支援しています。日常でも、お手紙のやりとりを行っている方への声がけや支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの掲示物を、季節に合わせて入居者様と工夫しながら作成しています。音や照明、温・湿度もその時々で伺いながら調整しています。	フロアは毎日清掃され、清潔で明るく、開放的である。季節柄、クリスマスツリーやリースが飾られている。入居者は自分の席でテレビを見、体操、レクリエーション等をして過ごしている。1階では加湿器の次亜塩素酸水で空間の除菌・脱臭を励行している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫し、気の合う入居者様同士で楽しく会話ができるよう配慮しています。おひとりで過ごしたい方はご希望に合わせてテーブルを配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器など、今までの生活で本人様が使用していたものを持参していただき、なじみのある環境作りを心掛けています。趣味の俳句や生け花など、その方の楽しみも環境作りに取り入れています。	全室エアコンが設備され、床はフローリングで、ベッド使用である。使い慣れたタンス、テレビ等を持ち込み、家族、行事等の写真が飾られ、遺影もある。自分らしく居心地良く暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動する動線と思われる箇所に手すりを配置しています。動線となる場所にはものを置いたり、ふさぐことのないよう安全に過ごしていただける環境作りを工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社クラスタ		
事業所名	やぎあん ユニット名 2F		
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	平成29年11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症でグループホームに入居したとしても、その人らしい生活やそれまで続けていた生活習慣、趣味や特技などが、できるだけ長く本人様の力を使いながら続けることができるよう、支えられるよう情報収集に力を入れています。おひとりおひとりが主役でいられる毎日が送れるよう、職員は支える役割としての支援を日々工夫しています。日々の楽しみとして、季節毎のイベントとして行事の企画・運営に力を入れており、地域の方々を招待しての「夏祭り」は毎年好評を得ています。日々のご様子を写真におさめ、面会時や運営推進会議で見て頂いたり、広報誌へ掲載し、施設でのご様子を知って頂く機会としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、八木山動物公園駅や日赤病院のバス通りに面した便利の良い住宅地の一角にある。理念は「我がままに」を基本に、今年度の介護目標「自分らしく、生き生きと」を掲げ、入居者がこれまでの人生を継続し、自分を出して生活できるよう支援している。「夏祭り」等で地域の方と交流し、「ハロウィン」では保育園児と触れ合い、飴を交換して喜んでいる。目標達成計画にある避難訓練への地域の方の参加は、継続して取り組むこととしている。看護師が常勤しており、協力医療機関との連携もよく、入居者の健康管理も行き届いている。入居者は、明るく暖かいフロアで談笑し、一人ひとりが自分らしく生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 2F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解、共有はしていますが、実践につなげる部分では、状況によっては若干困難な部分もみられます。	年度末に介護目標を振り返り、新年度はどうするかを検討し、「自分らしく、生き活きと」にした。その人の生活環境を継続し、本人本位の支援となるよう意識し、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の施設行事を通して、地域とのつながりを持っています。加えて、地域で行なわれている「オレンジカフェ」に体調などをみながら参加しています。日常的に、となると、交流は少ないかもしれません。	「やぎあん夏祭り」は、出店の焼き鳥、枝豆、焼きそば等を食べ、家電製品やお菓子が当たる抽選会は盛り上がり、交流の場となった。ハロウィンでは、仮装した保育園児と入居者が飴を交換し、楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関先や散歩中の挨拶を積極的に行なうことで、施設の現状を理解してもらう機会になっています。管理者が認知症サポーター養成研修の講師を務めており、地域の方への認知症の理解を深める場を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行なっており、より良いサービス提供につながればと考えています。	奇数月に年6回、定期的に行なわれており、毎回地域包括センター職員が参加している。外部評価の結果を報告したり、包括職員から認知症予防体操の提案があり、取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所と連携をとっています。必要に応じて、保護課に相談に伺っています。	生活保護や介護保険の更新手続き等で出向いている。行政からの研修予定表が届き、各種研修に参加している。管理者がオレンジカフェの「つながりの会」で「認知症予防について」の講話をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束を取り上げての勉強を行なっています。外部研修へも作画的に参加できる体制になっており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	玄関は、夜間の時間帯にだけ施錠している。玄関の呼び鈴で人の出入りが確認できる。現在、外出したいと言うが、無断で外出する方はいない。外部研修の、スキルアップ研修で虐待防止等の研修に参加し、内部研修で伝達教育をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行ない、職員の意識の向上に努めながら、不適切なケアを無くすようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で取り上げ、権利擁護についての学びを深めています。外部研修にも参加しており、日々のケアに取り入れられるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり、契約書や重要事項説明書の説明には時間をかけています。疑問や質問など、不安の解消にも努め、納得いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置し、ご家族様や入居者様からのご要望、ご意見をひろく募っています。管理者を窓口とし、必要に応じて職員全体に共有できる体制にしています。	面会時や計画書の説明時に意見や要望等を聞いている。ベッドの下に埃やティッシュがあり、清掃を問う意見があり、対応している。年間分の着替えを預かるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも提案やアイデア、意見を話せるような風通しの良い職場環境作りを心掛けています。話してもらった内容を反映できるよう、詳しく聞ける場も作っています。	毎月の会議等で職員の意見や要望等を聞いている。掃除機・電気ポット・ミキサー等を購入した。資格研修は勤務扱いとし、シフトを交替し、交通費を補助している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて面談の機会を作っており、職員ひとりひとりの特性に合った職場環境になるように調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修に加え、外部研修への参加を積極的に勧め、職員ひとりひとりの伸ばしたい能力を最大限に伸ばせるよう、人材育成の取り組みを行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が認知症介護指導者ということもあり、他事業所職員との交流の場が多いため、そのつながりを活かしての勉強会やネットワークづくりを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早期に信頼関係を築けるよう、コミュニケーションを多くとりながら、より良い関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様両者が安心して介護サービスを受けることができるよう、コミュニケーションを多くとりながら、信頼関係を築くよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フォーマルなものだけではなく、インフォーマルな地域資源を視野に入れながら、より良いサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や趣味活動など、ひとりひとりが活躍できる場の提供に工夫していますが、入居者様の状況により難しい時もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるご家族様には、日頃のご様子をお伝えしながら、本人様との時間を過ごせるよう配慮しています。なかなか面会にこられないご家族様には、毎月のお手紙で様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長期のご入居にともない、身体的な状況の変化がみられるので多くはないですが、地域の商店に買い物に出かけたり、散歩や外気浴で地域に出かけています。	馴染みの関係を大事にし、地元の老人会に参加する方を継続支援している。華道の先生だった方は、花を生け、入居者にも教えている。月命日やお盆に墓参りする方、正月に実家に外泊する方等もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士ではなかなか関係の継続が難しい場面が多いので、職員が仲介に入り、より良い関係性を築けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙やお電話で連絡を取り、退去後のご様子を伺うことがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本位で生活できるよう、ご希望ご要望などを伺いながらその人らしい生活ができるよう検討しています。	本人や家族からの情報に基づく生活歴や、日常会話の中から思いを把握し、希望に沿うように支援している。入居前に寝酒を習慣としていた入居者には、正月やお盆にビール等をだしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様などからできるだけ多くの情報を伺い、把握に努め、より良い生活のために支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様などからできるだけ多くの情報を伺い、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様のご要望を伺いながら、その時の本人様の状況に合わせた内容になるよう介護計画の作成を行なっています。	計画は3ヵ月毎、状況に変化があればその都度見直し、本人・家族の同意を得ている。退院後、食事状態が「とろみ」だった方に飲み込みハビリティを計画に取り入れ、「きざみ」に改善した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の「日常記録」や申し送り事項から、その時々の入居者様のご様子を反映した介護計画の作成・見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域資源の把握を行ない、ひとりひとりの入居者様の状況に合わせたサービスの多様化につながるような体制にはしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を行ない、ひとりひとりの入居者の状況に合わせたサービスの多様化につながるような体制にはしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に、以前からのかかりつけ医への受診を希望される入居者様がおり、ご家族様のご希望を受け通院へ付き添い、状況の説明をしております。症状に合わせての専門医受診も行なっています。	殆どの方が協力医の月2回の往診を受けている。看護師が常勤し、通院の付添い、医師との調整、医療ケア等にあたっている。医療連携が出来ており、24時間対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃、看護師の介護業務に入っているため、報告・連絡・相談が早くでき、対応につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の入院の際には、必要な情報が用意できるようにまとめています。また、ご家族様の了承を得ながら、退院の説明や看護師からの説明の機会に立ち会い、必要な治療と早期の退院が実現できるよう連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際に「看取りに関する指針」を説明しながら、意向の確認に努めています。また、重度化に伴い、ご家族様と医師、施設職員が集まる機会をもうけ、今後の方針を十分に話し合いながら看取りに望めるよう取り組んでいます。	入居時に「重度化期における対応（看取り）の指針と同意書」を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて説明し、改めて同意を得る。外部の終末期のスキルアップ研修に参加し、内部研修で伝達している。今年度、1名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には直ちに看護師、管理者に電話連絡し、対応の指示を受けるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、そのうち1回は消防署の立ち会いの元で訓練を行なっています。	避難訓練は夜間想定で2回実施した。2階の車いすの方を、職員が地域住民の役をやり、4名で階段から避難させた。消防から「避難が分かる工夫を」の指導があり、検討中である。地域の方の参加はない。	地域住民の協力は、昨年のステップの課題である。災害時の対応は、事業所だけでは限界があり、地域防災組織等に働きかけ、協力を得られるよう取り組んで頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や外部研修での学びを活かし、尊厳を尊重できるような対応や声かけを行っています。	人生の先輩として尊重し、「さん」を付けて呼び、声かけも馴れ合いにならないよう注意して接している。失敗した時はそわそわして表情が違うので、「着替えますか」等の声かけをする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定ができるような場面では、入居者様の状況に合わせて決めることができるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活リズムやその日その時の思いを尊重し、その人らしい生活ができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や身だしなみなど、ご自分では難しいことの支援をしています。外出する際は、よそ行きの服装へ着替えることができるよう声かけや支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ入居者様の好みを反映できるよう、日頃から献立を作っています。おかずの盛り付けや配膳など、入居者様ができることは続けられるよう支援しています。	メニューは、職員が入居者の好みを聞いて作成し誕生日には、パン、ラーメン、蕎麦、握り寿司等の希望がある。会社の食費支援で、職員も同じ食事を取りながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの身体状況に合わせた食事内容、部位分摂取量になるように心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの口腔内の状況に合わせた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としながら、ひとりひとりの状況に合わせて柔軟な対応をしています。普段はパットへの失禁が多い方でも、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	年齢に応じ失敗の回数が増えているが、トイレに誘導している。退院時オムツだった方が、定時の誘導でリハビリパンツに改善した。オムツ等の交換は「お部屋に行きませんか」等声がけし、ドア、カーテン等を閉めて交換する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食前の軽体操やおやつ前に体操は取り入れているが、なかなか便秘の解消にはつながっていないように感じます。水分も多く取れるよう、好みの飲み物を用意するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の声かけがきっかけにはなっている方が殆どですが、本人様のご要望をお聞きしながら、時間帯やタイミングなど柔軟に対応しています。	午前と午後の時間帯に、週2～3回入浴する。毎回1番風呂が習慣の方もいる。嫌がる人には時間や職員を替えて支援している。重度者は、2名で介助し、シャワー浴である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のご希望を伺いながら、2中でも横になって休める時間を作るようにしています。夜間も、ご本人様のご希望を伺いながら、安心して休める時間を提供するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を確認しながら、確実な服薬支援ができるようにしています。内服薬の目的や作用、副作用なども、必要に応じて処方箋を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居にあたっての情報を共有しながら、日頃のコミュニケーションから得た情報もくわえて、本人様の楽しい毎日を支えられるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご要望が聞かれた際には、外気浴や散歩、ドライブに出かけられるよう柔軟に対応しています。地域のコミュニティセンターでの集まりにお連れし、楽しむ機会を作っています。季節毎の遠足も企画実施していますが、ご家族様の同行はありません。	遠足で松島に出かけ、花見では三神峯公園に出かけた。希望に応じて、青葉神社、大崎八幡、名取熊野神社等に出かけた。日常的には、ベンチで外気浴をし、散歩がてら近くのコンビニで菓子を買ったり、薬局で飴、マスク、湿布等を買っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かはお自分でお金を所持しています。ご希望に合わせてお買い物にお連れし、ご自分で皆生をガできる場面を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をお送りしたり、ご希望に合わせて電話をかける支援を行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に作成した掲示物などの作品を、季節に合わせて食堂兼居間に掲示しています。温度や湿度も配慮し、健康に過ごせる空間作りを心掛けています。	フロアは毎日清掃され、清潔で明るく、開放的である。季節柄、クリスマスツリーやリースが飾られている。入居者は自分の席でテレビを見、体操、レクリエーション等をして過ごしている。1階では加湿器の次亜塩素酸水で空間の除菌・脱臭を励行している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を工夫して、お話し合う入居者様と過ごせる時間を大切にしています。おひとりで過ごせる時間も大切にします。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具などを持ってきていただき、落ち着いて過ごしていただける環境作り、工夫をしています。	全室エアコンが設備され、床はフローリングで、ベッド使用である。使い慣れたタンス、テレビ等を持ち込み、家族、行事等の写真が飾られ、遺影もある。自分らしく居心地良く暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活ができるよう、環境の調整・工夫をしています。		